

立命館大学
キャンパスアジアプログラム

CAP

新聞4号

発行日: 2014年1月下旬
企画・編集・制作
近藤 一山 大木 みれ

2013.9.2~12.14
韓国釜山

東西大学校



キャンパスアジアプログラムとは...?
広東外語外貿大学（広東省）、立命館大学、東西大学（釜山）の共同プログラム。各大学から10人が参加し、各国の言語・歴史・文化を学びながら共に生活を2年間過ごす。

日本人学生 2名増えました

3学期より立命館学生が2名増えました。これまで日本人学生は8名でしたが、追加募集の選抜テストを受け合格しました。これで日中韓各10名、計30名の学生が揃いました。



言語コミュニケーション専攻
石田 晶子

母国語は日本語、韓国語、中国語。最近3DSの「とびだせどうぶつ森」にハマっています。発売からすでに1年が過ぎてしまっただけで、まだ購入していないのが悩ましいです。韓国との交流が楽しみです。



現代東アジア言語文化専攻
鎌倉 冬梅

9月からキャンパスアジアに加わった鎌倉冬梅です。韓国学期を通して、留学のすばらしさや、学業の楽しさ、自分の至らなさを発見することができました。今後とも宜しくお願いします。

週12時間の語学授業

9月から11月にかけて、韓国・釜山に位置する東西大学で約130時間にも及ぶ韓国語授業が行われた。授業はネイティブの韓国語教師4人が担当する。テキストを用いた通常授業（週8時間）は4人の教師が2時間ずつ担当し、会話・作文・聴解などの授業（週1時間ずつ）は各教師がそれぞれを担当する。

授業はテキストに沿いますが、学生の学習意欲を高めるため教師が様々なトピックを用意する。印象的だったのは、日中韓の文化の違いについて話す場面が多かった事だ。例えば、料理・結婚・マナーなど、異文化交流は本プログラムならではの学びのひとつだ。

会話・作文・聴解の授業

では、ドラマのワンシーンを演じたり、キャンパス内にいる学生へインタビューを行ったり、両親への手紙や孫への遺書を書いて発表するなど、バラエティに富んだ授業も多く、学生たちは毎日楽しんで授業を受けている事ができた。

日本人学生の鎌倉冬梅さんは、「先生方の聞き取りやすい説明のおかげで、韓国語初級の私でも理解できてよかった。もっと頑張りたい」と韓国語に対するさらなる意欲をみせる。

2年目を迎えるキャンパスアジア。3カ国とも語学授業のレベルを中級から上級に上げるが、学生のモチベーションは既に上がっているようだ。

（石田 晶子）

通常授業に加え、
会話・作文・聴解授業。

シサ日本語学院 日本語教師

渡邊 菜々子 先生

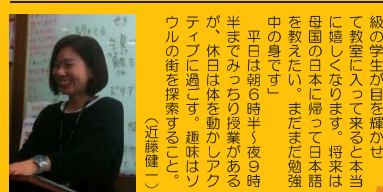
海外の大学で英語科の専攻と修士号を取得し、日本語教師として活躍中。

ソウル市のシサ日本語学院にひとりの女性の日本語教師がいる。渡邊菜々子先生は、彼女が大学卒業後、韓国の淑明女子大学で3年に学んだ経験がある。日本へ帰国後は、韓国に就職し、週末を利用して日本語教師養成講座に通った。2012年からソウルで幅広い年齢層の学習者へ目的にあった教授法で日本語を教えている。

「学生が今までよりもっと具体的に話せるようになりたい」と、敬語を覚えて話しかけてくれたり、初級の学生が目を離せなくて教室に入ってくるまで、授業に遅くならないように、授業中は母国の日本語に帰って日本語を教える。また、まだ勉強中の身です。

平日は朝6時半～夜9時半まで、休日の授業があるが、休日は体を動かすアクティブな授業。趣味はソウルの街を探索すること。

（近藤 健）



スキー旅行

期末テストが終わった後、1週間の休暇を利用して、丸山紗代を含む3人で全羅北道・ムジウへのスキー旅行を決定しました。しかしスキー場に近づくにつれ、テンションが下がっていき、紗代は「実はスキー出来ません。自然とできるようなことになるんじゃない？そう軽く見ていた2人でした。が、そうは問屋が卸しませんでした。スキー場に到着して何も考えずにリフトに乗ると、そこは中級コース。紗代は顔真っ青。1秒も前に進めない。助けても助けても転ぶ。1時間ほど立ち往生している。アジヨッシ（韓国語で「お困り」）が見かねて声をかけて来てくれた。困っている紗代に手取り足取り丁寧に教えて、転んだら抱きかかえて起こしてくれる。へっぴり腰の紗代に「俺を信じて」と手を差し伸べ続けたが、30分経っても一向に滑れない紗代。遂にアジヨッシは「スキューのお兄さん」を呼び、「この子を...」と優しく滑りながら去って行きました。

「振り落とされるなよ」レスキューのお兄さんは、紗代を雪上バイクに乗せて麓まで下りて行ったのでした。韓国ドラマみたいな展開！もしや紗代に恋が始まるのでは！と思ったら、もしました。何となく（笑）。それにしてもあのアジヨッシ、キムチチゲよりも熱かったな。

（奥村 一穂）

おもえぴ

オットケ
어떡해?
どうしよう

※韓国留学中に起きたおもしろいエピソードのコーナーです。

「あ、ひさびさの日本の味...」

「お待たせ!! 人気NO.1のキムチうどんね!」

2014年2月開始
四学期 広州ステイ

皆様お元気でですか。キャンパスアジア学生の江佳業です。あつという間に2014年になりました。去年、中国・日本・韓国の3学期で色々な事を経験してとても充実したと思います。ひとつ残念だったと思うのは、2学期の時に、私たち中国人学生に学校行事がたくさんあったので、日本と韓国の友達に会えなかったことです。今学期は行事が少ないようですのでとても楽しみです。ところで、日本ステイの時に、大阪や神戸、東北地方がとてきれいで好きになりました。2年目の日本学期も楽しみです!

（江佳業）

王渝灵

曾文智

薛植华

江佳业

谢浩娜

黄昊

許逸倫

肖睿

黄文文

崔紫茵

你好! 中国同学们

近くて遠い国「韓国」 日韓歴史の今昔

朝鮮統治時代

かつて日本は朝鮮半島を植民地として支配していた。総督府を置き、全ての権限を掌握していた。日本は当時強大な勢力を誇っていた中国やロシアに引けを取らないためにも植民地を持つ必要があった。

当時、日本が行っていた政策のひとつに文化政治というのがある。武力を行使した武断政治に不満を持つ朝鮮人が起こした三一独立運動など民族運動を抑圧するために実施されたのが文化政治だ。文化政治では憲兵警察による武力弾圧を廃止し、厳しく取り締まっていた言論・出版・集会も一部容認するようになった。一見厳しい制度が緩和されたようにも見たが、植民地統治をより確実に行うための手段でもあった。憲兵警察の廃止により文化政治へ移行するが、実態は普通警察を増加させ、出版・集会の一部容認により朝鮮人の思想を監視し、抗日思想を抹殺させた。さらには朝鮮人を日本に同化させながら天皇に忠実な臣民を育てる事で、植民地支配を円滑に進めようとしたといえる。

現代、植民地時代の記憶から反日感情を持つ韓国人も少なくない。当時の日本は朝鮮を支配する事で権力を誇示していたが、朝鮮側からいえば、理不尽な支配を受け、抗日思想を持つ事すらできない時代であった。今回、取り上げた文化政治は朝鮮植民地時代のほんの一部分でしかない。過去から目を背ける事なく向き合い、今後の日韓関係をどのようにすべきか、考える必要がある。

(丸山紗代)

別所浩郎 駐韓国日本大使

現在、日韓関係は過去最悪の状況だとメディアでは報道されているが、メディアから得られる情報だけでなく、現場で活動されている方の意見もやはり重要である。10月下旬、現・駐韓国日本大使の別所浩郎氏が我々のために東西大学校で演説をして下さいました。

総領事は日韓経済協力について真剣に向き合う人物のひとりである。日本企業の東レやアサヒガラスが韓国ケミ市を拠点とする理由は、顧客(韓国の事)の近くで仕事をさせたい思いと、優秀な韓国人を雇わせ技術競争をさせたいという思いがあるからだ。日韓とも資源は乏しいが、互いの企業の利点を活かした共同プロジェクトが進行中だ。

また、13年秋にソウルで行われた日韓交流を目的とした催しにも参加されている。会場には反日感情を抱く人も多いが、このように積極的に関わり合うと徐々には増えてきているという。

「日韓関係改善の為には過去も無視できないが、未来を考える事も重要だ。難しい問題には真摯に向き合い、若い人の支援を得て揺るぎない日韓関係を築きたい」
外交官の立場から日韓関係をどのように考え、改善の為どのように働きかけているのかを伺う事ができた。政治に関して言えば日韓の関係は良いとは言えないが、経済協力や交流はむしろ活発なようだ。これからは若い世代を中心に関心を持ち合う事が大切だろう。

(外山未祐)



한글부생활모양!! 韓国の勉強と生活模様

大学前アパートで 小グループ生活

韓国学期では大学前にあるアパートに日韓の学生がひとりずつ入り、3人で3ヶ月の生活を共にしました(4人部屋もあり)。日本学期のシェアハウスとは違い、今回は個室が与えられていた為、個人のペースを保ちつつ、メリハリのある生活を送る事ができました。勉強に集中したい時は、自分の部屋に籠もり、食事はルームメイトと楽しく食べるなど、それぞれの生活リズムが確立されていました。



共同生活をしながら一歩一歩生活に慣れていくのは、やはり語学面です。朝から晩までネイティブの先生が傍にいない状態なので、分からない事があれば直ぐに聞く事ができ、他国語での発表がある時は、文章の校正や発音など、互いに助け合いました。

実は、私は韓国に来た時ほとんど韓国語が話せませんでした。しかし、ルームメイトの話しを聞いている内に徐々に聞き取りができるようになっていったと思います。就寝前には韓国語でルームメイトと色々な話をし、自分の思いを友達に分かってもらえる喜びを感じながら、もつと韓国語を上手に話せるようになっていきました。

共同生活をしながら一歩一歩生活に慣れていくのは、やはり語学面です。朝から晩までネイティブの先生が傍にいない状態なので、分からない事があれば直ぐに聞く事ができ、他国語での発表がある時は、文章の校正や発音など、互いに助け合いました。

3ヶ月間の共同生活を通して、相手を思いやる気持ちや、助け合う気持ちが以前よりも一層強くなりましたし、異文化への理解が深まったように思います。中国学期でもこの気持ちを忘れずに頑張りたいと思います。(鎌倉冬梅)

韓国での留学生活は充実しながらも常に時間に追われていました。そんな中スローシティ・青山島を訪れ、久しぶりにゆっくりと大きな深呼吸をする事で、新鮮な気持ちで韓国を感じることができました。そこでの体験はデジタル大国である韓国のイメージとはかけ離れたものですが、ゆっくりとした時間の中で眺めた景色などは韓国の新たな魅力として印象深いものでした。(坂下祥太郎)

なく、その地特有の食べ物や文化遺産を有するという点にもあります。青山島では、全国生産の9割を占めるアワビに代表される新鮮な海産物を味わえ、オンドルを敷き詰めて米を栽培するオンドル石水田などを見ることが出来ました。

大きなビルが並び、人々は時間に追われ、グローバル化の流れの中、アナログな生活を追及し続けることで人々に自身の生き方を振り返るきっかけを与えるのがスローシティだと思っています。私達も



韓国スローシティ 莞島郡青山島へ

10月3日から2泊3日で韓国のスローシティと言われる莞島郡青山島へ文化研修で訪れました。青山島は緑の麦畑と調和した海が印象的で、秋には道に沿った低い石垣から見える一面のコスモス畑が美しい島です。島の美しさもさることながら韓国ドラマ『春のワルツ』のロケーション地としても有名です。また、スローシティの魅力は単純にアナログな場所というだけでは